

練馬・文化の会 会だより

共同代表：有原誠治 大内要三 小岩昌子 小沼綾子 田場洋和 吉田巳蔵

事務局：森田彦一 TEL：03-3951-4276 FAX：03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

新年会は1月6日(日)午後2時～ 区役所20階交流会場
 ゲスト出演は沖縄三線奏者の豊岡マッシー 会費：2000円
 出欠は同封ハガキでご連絡ください
 (52円切手を添付ください) 12月10日迄必着

恒例の新年会はゲストに沖縄映画祭に登場した豊岡マッシーさん(三線奏者)をお招きし、沖縄の雰囲気をも十分に堪能していただきます。

出欠ハガキを同封いたしますが、会場使用料が参加者数が75歳以上が過半数の場合は無料、65歳以上が過半数の場合は半額となります。

すので、同封ハガキには生年月日をご記入お願いいたします。同封ハガキには52円切手を貼付し、12月10日必着でご連絡ください。

沖縄映画祭でご協力いただいたもあい練馬や各民主団体や美術会などに広く参加を呼びかけます。

「ねりま沖縄映画祭」9月22日～10月12日の8日間で13作品上映
 スタッフ含め1000名超す人が参加 参加者数は昨年比で倍化
 県知事選の投票日(9月30日)をはさみ 沖縄への関心盛り上がる
 (ねりま沖縄映画祭2018実行委員会 柏木美恵子)

9月22日から10月12日まで8日間に渡って13作品を上映した「ねりま沖縄映画祭2018」は、好評のうちに終了しました。延べ941名の来場者、運営スタッフを入れると1,000名を超える人がこの映画祭に集いました。2017年の来場者が527名であったことを考えると、本当にたくさんの方が来て下さいました。「カメジロー」をはじめとする魅力ある作品のラインナップも一因と思いますが、やはり、7月28日の翁長前知事による辺野古埋め立て承認の撤回表明と逝去、県知事選、翁長さんの遺志を継ぐ玉城デニー氏の勝利が、連日テレビや全国紙によって報道されたことが、沖縄への関心を高めたのではないかと思います。

沖縄からの台風が東京を直撃し、県知事選の投・開票日である9月30日、映画祭は小室等さんをゲストにお迎えして「ゆんたんざ沖縄」を上映する日でした。JRはお昼の時点で20時

での「計画運休」を発表し、西武池袋線も夕方に22時での運休を決めました。「とても楽しみにしていたけれどJRが運休するので行けない。他の日に変えられませんか？」と申し訳ないお問い合わせも頂きましたが、振替上映はできませんので、たとえ来て下さる方がいらっしゃらなくても仕方がないと予定どおり上映することに。

県知事選は「接戦」と言われていましたが、受付の担当で別室にいた私が20時過ぎにwebをチェックすると、すでに一部のメディアは玉城デニーさんの当確を打っていました。ビックリと嬉しいのでイスから転げそうになりましたが、デニーさんの事務所はまだ勝利宣言をしていません。地元紙が当確を打ったのは、小室さんのトークが始まった時でした。もう大丈夫だろうと会場に報告、嵐のなかを来て下さった小室さんと31名の来場者の方々、そ

してスタッフみんなから歓声があがりました。3年間の映画祭で、これほど思い出に残る上映はないのではないかと思います。

今年の映画祭は、全国で公開された「カメラロー」が目玉作品でしたが、劇映画は35mmフィルムでしか上映できない「オキナワの少年」と「パイナップルツアーズ」、ドキュメンタリーは、大浦湾の美しい自然をとおして辺野古新基地建設を問う新しい作品「ZAN ジュゴンが姿を見せる時」、森口豁さんのトーク&コザ事件と国会に激突死した沖縄の青年を追った2作品、神事と共にいきる久高島の「女が男を守る島」と池間島の「ユークイ」、市井の人々にいきづく沖縄のアイデンティをスイス人監督が撮った「カタブイ」、石垣島の台湾移民の一家を描く「海の彼方」、米軍基地に湯水のようにお金を使う日本政府への批判をコミカルに描く「ザ・思いやり PART2」、昨年について、真喜屋努氏による「デジタルで甦る沖縄」など、地味ではあっても素晴らしい作品を上映できたことは大きな喜びです。

監督をはじめ、小室さん、西江昭吾さん(沖縄タイムス)、豊岡マッシーさん(ミュー

ジシャン)など素敵なゲストの方々、会場ならびにコーディネーターを引き受けて下さった武蔵大学の永田浩三さん、日大芸術学部の古賀太さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

今年も反省点は多々ありますし、公共施設を借りて行う難しさや運営など課題はいろいろあります。けれども、なかなか見ることができない作品を上映できる喜び、配給会社の方々やゲストの皆さんとの新たな出会い、そして何より来場した方々からのアンケートに励まされ、さらに魅力的な映画祭にしていきたいと改めて思っているところです。

最後になりましたが、文化の会の皆さまのさまざまなご協力とご支援に心からお礼を申し上げます。辺野古崎への土砂投入が政府によって強行されようとしているなか、米軍基地問題は沖縄の問題ではなく、「本土」の私たちの問題であることに深く思いをいたしながら、今後もこの練馬から、豊かで多層な「沖縄の声」を届けていきたいと思います。

文化の会と沖縄映画祭—幹事中心に民主団体等へ積極的なアプローチ 3枚綴り17枚、1回券108枚のチケットを事前販売し、黒字化に貢献

ともかくチケットが捌けなければ、赤字が残るだけ。文化の会では、まず約20人の幹事に3枚綴り1枚と1回券5枚を送付。会員の掘り起こしを徹底的に優先し、区内のイベント会場にもチラシ撒きを優先しました。これまでは文化の会会員にPRしても・・・

というのが定評になっていましたが、実働会員150名の皆さまにチケットをお届けすることができました。案ずるより産むが易しを地でいった取り組みとなりました。

(田場・記)

第12回被爆者の声を受け継ぐ映画祭—武蔵大で7月14、15の両日、7作品上映 吉永小百合主演作の上映・トーク等もあり、過去最高の1648名参加 (実行委員会の報告書から要旨抜粋)

(第12回) 被爆者の声を受け継ぐ映画祭 2018は、7月14、15の両日、武蔵大学江

古田キャンパスで行われました。7作品が上映され、吉永小百合主演の「愛と死の記録」

(35ミリ)の上映と宮崎信恵監督と吉永さんのトークが事前に毎日新聞、東京新聞で記事化されたこともあり、同作品の上映には会場満杯の800人が参加しました。

結局映画祭全体では過去最高の1648人が観覧するという成果が得られました。



大内要三さんの連続講座「日本の安全保障政策を考える」3回目(最終)のご案内
「自衛隊を強く大きくすれば、日本は平和になりますか?」
11月17日(土) 午前10時~正午 ココネリ研修室2・西側 資料代300円

大内要三さんの連続講座「日本の安全保障政策を考える」が早くも最終の第3回目を迎えます。第1回(9月30日)の「朝鮮戦争が終わると、日本は平和になりますか」、第2回(10月27日)の「安保法制(戦争法)の成立で日本は平和になりましたか?」では、ともに日本の大マスコミがなかなか取り上げない東北アジアの動きを丁寧にまとめていただきました。第3回

の講義で焦点となる「自衛隊」は安倍政権の改憲の焦点にしているもので、

最近の「軍事費増大」や沖縄宮古島・石垣島への自衛隊基地新設など、あるいは横田基地へのオスプレイ配備など、めまぐるしく動いており、大内さんがどのように整理したうえで、どのようにお話いただくか、大変期待されるところです。

東京芸術座「チャレンジ・ド〜遠い水の記憶〜」

12月24日(月・祝) 開演14時~練馬文化センター小ホール

文化の会幹事の小田原美保さんが出演

東京芸術座の「チャレンジ・ド」が12月24日(月・祝)練馬文化センター小ホールで行われます。五輪の水泳選手として挫折した若者と視覚障害をもった生徒との交流を描きながら、「向き合う力の大切さを」アピールする。

24日の練馬文化センター以外に、21日午後7時、25日午後2時には野方の区民ホールでも公演される。

『チャレンジド=Challenged』とは“ハンディキャップを跳ね返せ-神から試みられ

ている人たち-”または“挑戦するよう運命づけられた人たち”という意味の言葉です。全ての人間には、生まれながらに自分の課題と向き合う力が与えられている。しかもその課題が大きければ大きい程向き合う力もたくさん与えられているという哲学に基づいて生まれた言葉です。……

・オリンピックでメダルを期待されていた水泳選手が国内でまさかの敗退。挫折感で苦しんでいた時に公立盲学校の校長から「視覚障害の生徒たちに水泳を教えてほし

い」と懇願されて教職に就きます。生徒たちとの葛藤と交流の中から自分自身の目標を見出し、共に成長を目指して進む。実話に基づいた物語です。(東京芸術坐HPより)

第8回江古田映画祭「3.11福島を忘れない」は19年3月に実施 ゲストトークに詩人のアーサー・ビナードなどが登壇

福島第1原発事故から8年、事故に関する問題意識の風化が危惧されていますが、問題はまだ始まったばかりです。私たちの福島を忘れてはならないという思いは変わりません。2013年から始まった江古田映画祭は来年で第8回目になります。今回もテーマは「3.11福島を忘れない」としました。様々な角度から「福島を忘れない」映画が創られ続けています。福島を撮り続ける監督作品に加えて、武蔵大学生や相馬高校の作品も上映します。監督や関係者のトークに加え、詩人のアーサー・ビナードさんのトークもあります。福島への熱い想いと現状を伝える写真の展示や店頭販売も予定しています。ご来場をお待ちしています。

日程 2019年3月2日(土)～3月中旬

会場 3月2日(土)と 3月10日(日)は武蔵

大学 練馬区豊玉上1-26-1

3月3日(日)～ ギャラリー古藤 練馬区栄町9-16

上映作品は、「福島は語る」「モルゲン・明日」「リオフクシマ」「ダーク・サークル」「武蔵大学永田浩三ゼミ作品」など。また、土井敏邦監督、坂田雅子監督、詩人のアーサー・ビナードさんなど連日ゲストをお迎えし、トークなどを行います。

詳しい上映スケジュールは1月中旬にできあがる江古田映画祭チラシもしくは江古田映画祭facebookページかギャラリー古藤のホームページをご覧ください。

主催：江古田映画祭実行委員会

後援：みどりのまちづくりセンター

協力：ギャラリー水・土・木

第7回「経済」公開講座(最終回)のお知らせ

①テーマ「簿記と税の基本—家計と生活を直撃する増税—」②日時；12月8日(土)午後1時30分～③場所；練馬ココネリ(研修室2西)

詳しくは「第7回公開講座・お知らせ」

チラシをご覧ください。なお、公開講座と「新・連続経済講座」は、今回をもって最終回といたします。私の研究成果の発表の機会を与えて頂いた会の関係者のご協力に感謝します。 眞嶋康雄

編集後記

○ 文化の会の幹事は共同代表6人を含めて25名。ですが、幹事会出席メンバーは残念ながら10人を超えることはほとんどないのですが、沖縄映画祭の取り組みが始まってからは10人以上の出席者。やはり出席者が多いことは活動が盛り上がる最大の要因です。

○ 「新入会員」案内パンフを手にした人はどのくらいいるのでしょうか。

先日の幹事会で立川さんの管理で扱うことにしました。1千注文しましたので、必要なのは立川さんまでご連絡を!

○ 次回幹事会は12月13日(木)午後7時～ココネリ第4研修室です。○ 新年会の会場は60名で満杯。あふれちゃうのではとの心配は杞憂か。

○ 沖縄映画祭の反省会は11月15日(木)午後7時～生涯学習センターで。